常磐每日新聞

五月二十八日夕刊

日刊

定價　一部金五錢　一ヶ月金五拾錢　郵稅五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　坂本忠治
平、長橋町三五
發行所　常磐每日新聞社
電話　六三〇番
印刷所　常磐每日印刷株式會社
(振替口座)東京　四〇二一〇番

庶民階級の利便
公益質屋案進む
市會が條例を可決
今は開業を待つばかり

既報、白銀町市內地に店舖及び倉庫を建設して來る九月から開業の運びに至る平市公益質屋は昨廿七日の市會でその條例の決定を見たが、夫れに依ると

質物は日用家具、衣類陶じ器其の他確實な動產に限り一口に付廿圓以內、一世帶に付百圓以內の限度で貸付け、流質期は四ヶ月

利率は一ヶ月、十円以上は一歩、十圓未滿は一歩二厘、一口五十錢以內は無利子といふ事になつたから民營の質屋とは非常な開きがあり從來金融機關に惠れなかつた一般庶民階級は大きな利便を得る事となつた

たが原因は取灰の不始末らしい

苗代の發育良好
郡下の農作

石城郡に於る農作狀況霜害により桑園を始め野菜馬鈴薯、甘藷、果樹類等に多少の被害があつたが苗代は殆ど無害同樣で發育經過頗る良く田植は六月上旬より開始月末終了の見込である、尙春蠶は凍害地を除き飼育優良で目下三眠位である

愈よ平商新築
建築委員九名決定

平商業學校新築財源の起債八萬円は一ヶ年の不用利子を差引大藏省から七萬九千百円の起債を許可された爲め早速簡易保險局から低資を借入れ愈よ新築工事に着手する事となつたので昨廿七日の市會で建築委員を左記九名と決定した

矢吹龜作　大谷武雄　馬目雅治　大嶺庫　萩原義雄　酒井淸　吉田寅之輔　鈴木彌太郎　川崎文治

氷水營業者
總集會

平署管內氷水營業組合總會は二十九日午前十時同署會議室に開き本年度營業方針を決定する

鐵管盜難損害賠償
法定和解が成立

平市は水道鐵管の盜難事件に關し窃取者の横田平藏、同平助兩名及び故買者の佐藤治郎に夫々損害賠償請求の訴訟中であつたが佐藤は百五十五圓五十六錢を支拂つたので此分を取下げ横田親子は八百廿六円十九錢を本年六月から明年四月迄の間に連帶支拂ふべき旨の法廷和解が成立、昨日の平市會は是れを承認した

釋放された足で又も
無錢飲食を働く

四倉町鈴木孝平方漁夫折笠良一(三〇)は二十六日夜八時中頃市內南町料理屋旭屋事引地とめ方に登樓九圓五十錢の無錢飲食を働き平署員に檢擧された　同人は去る二十日夜四倉町內で前後數回の無錢飲食を働き二十六日送檢同日釋放されたものである

取灰不始末の失火　二十七日午前二時半頃渡邊村字田中島の鈴木牛松氏方竈室から發火、同家を半燒して三時過ぎ鎮火し

矢吹原開墾
移住者募集

平市では縣營矢吹原開墾地移住者の今次事變による欠員補充の爲め希望者を募集してゐるが、年齡は二十歲—四十歲迄で個人經營人一戶當に宅地百五十坪、畑二町五百步、採草地五反步、薪炭林一步町五反步を貸與する外一戶每に三百圓を支給する

徐州會戰で負傷　磐崎村出身兩角部隊伍長中野文吾君は徐州會戰で右手に貫通銃創を負つた旨その程友人に通知あつた　同君は應召まで平市山崎合名會社に勤め傍ら平市青年學校の指導員となつて盡してゐた又平市新川町出身一等兵馬目勝雄君も同じく徐州の戰で重傷を負つた由

社告

強震被害の復舊作業中御覽の体裁御寬容願上げます。

常磐每日新聞社

好間鞍替の旅費詐欺　好間村上好間料理店瀨谷さとさん方抱酌婦土佐はる子(二二)坂本まつ(二三)の兩名は去る三月中安達郡高川村岩代熱海溫泉料理店佐藤久吉氏方に鞍替する約束をしてその旅費とし佐藤から十圓宛を受取ながらまだ行かないといふので二十七日郡山署に詐欺の告訴をされた

好間功勞者表彰　好間村では六月一日自治制發布五十周年記念式てんを擧行功勞者を表彰することゝなり今二十八日準備村會を開いた

自作農の移住　赤井村菅井亘氏は過般北海道自作農移住を北海道廳に出願したがこの程許可され明後三十日出發すると

會田磐炭病院長　磐城炭礦病院長會田政治郎氏は豫て病氣療養中のところ二十七日午後三時內鄕村宮井場の自宅で死去された享年六十三、氏は帝大醫學部卒同鑛病院在職二十年に及び豪放磊落金山六千の從業員から慈父の如く敬慕されてゐた

平市人事

回出生
△新川町一二猪又謙次郎(三三)氏三男農君

回婚姻
△立町五一澄川トミ(二九)さん夏井村大字藤間字松原一二九渡邊源吾(四三)氏
△田町一七石崎茂(二三)氏と四丁目八鈴木キヨ子(二四)さん

ラヂオ　JOHK

今晩の部
▽後六、〇〇 連續童話劇「ヘリウム」小僧コドモ會
▽後六、二五 講演「その日のロジエストウエンスキー」元遞乘組員赤松虎雄
▽後七、四〇 講演「我國工業の目指す處」大河內正敏
▽後八、〇〇 浪花節「阿部童子丸」浪花亭愛吉
▽後八、三〇 長唄「岸の柳」杵屋勝五郎外
▽後八、四七 連續ラヂオドラマ「東郷元帥」ワシントン會議前後新國
▽後九、〇〇 時報解說

明日の部
▽前六、三〇 家庭園藝の時間「さつきの花後の手入れ」小林憲雄
▽前九、三〇 (子供の時間)ラヂオ訪問(東京中央電話局より)
▽後〇、〇〇 管絃樂舞踊組曲「ハイアワサ」外東京放送管絃樂團
▽後一、〇〇 野球試合實況(氣象通報に引續き)
▽後一、一〇 傷病將士慰問の午後(大阪陸軍病院金岡分院より)
▽後六、〇〇 (子供の時間)音樂物語「玩具交響曲」山野一郎
▽後六、二五 日本「民族の大陸還元」白柳秀湖
▽後八、一〇 歌謠曲「さくら進軍」伊藤久男
▽後九、一〇 佛法僧を聽く(旭川市郊外旭山公園より)外

白柄劍風連

大島多喜夫作
井川洗厓畫
布施長春畫
村瀬泰映畫

……四四九……

箱根山中（三）

「承知いたした」

と、五左衛門は馬上のお娟を顧みて、

「お娟、さあ行かうか」

「あい、では大導寺様、お別れ申します。何うぞ御氣をおつけなさんせ」

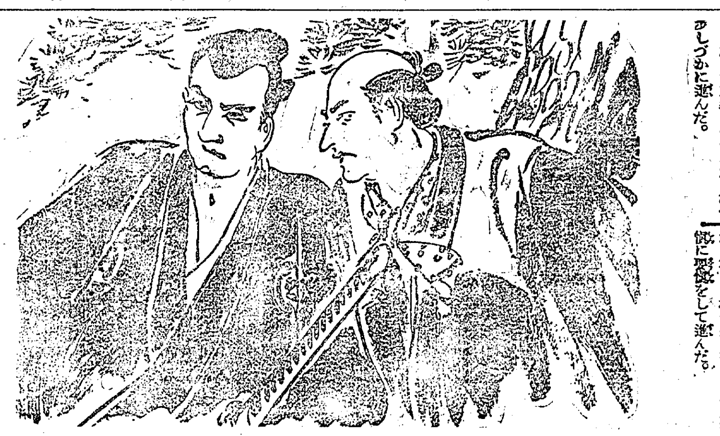
「松平氏のこ とは飽まで も頼むて」

「あい、宜しうございます」

「では失禮いたす」

と、五左衛門は馬の鼻を叩きながら、一間許り行きかけたが、何事か思ひ出して顔の色をすこし變へて立停つた。

源太と國香と精之助は、紀州藩から放つた刺客に備へながら歩一歩しづかに進んだ。



時、振返つた五左衛門は源太を呼び止めた。

「何うされた」

と、源太は矢ッ張り急に振返つて問ふた。

五左衛門は馬の綱を放して、ツカ〵と戻つて來たが、源太の耳許で何やら低く囁いた。

「うむ、能く判つた。俺も生れは紀州やから、紀州藩が鐵砲上手の根來衆を巧に使つて居ることは承知して居る」

「油斷のない北條、定めし御用意は御座らうが、何しろ飛道具には敵てんから」

「大丈夫ぢや、此方にも準備がある」

「ではお大事に………」

と、五左衛門は急いで馬の傍へ戻つた。そして、いつか聲え込んだ馬子唄をうたひながら悠々と箱根の湖に沿ふた山道を辿つて行つた。

源太が凝とそれを見送つてゐると、國香も精之助も同じやうに見送つてゐた。

「何と云つても偉い男ぢや」

と、源太は獨り言のやうに呟いた。

すると、釣られ氣味に、

「江戸まで馬子で押通すのは怨つて居る、出來ないことだ」

と、國香も感歎したやうに云ふ。

五左衛門の馬子唄は、山蔭の並木をうねつて、次第に霧の間に消えて行く。

三人はヒソ〵と相談を仕合つてゐたが、先づ源太は用意して來た短い種ケ島を背中に負ふた風呂敷包の間から取出して、彈をこめて火繩に火をつけた。そして、源太は離れて並木の下へ降つて遊ふやうに行くと、國香と精之助は並木の松から松へ身を委ねながら要慎に警戒をして進んだ。

三島の方から又馬子が、商人らしい客を乘せて篩い聲で唄をしながら過ぎて行く。

恰度、國香と精之助が目配せつけた地點まで進んだが、人影らしいものは認められなかつた。けれども、並木の右側にこんもりと茂つてゐる雜木林と雨竹藪がつゞいてゐた。

「うむ、あの藪のなかだな」

と、國香は精之助を顧みて云つた。

二人は凝と藪を見守つて敵の動靜を窺つてゐたが、何等の變つた樣子がない。此方から逆襲をして見やうかと思つて、精之助は國香に耳打をした。

と、國香は並木から離れて、わざと跫音荒くバタ〵と七八歩走つて見た。と、同時に、精之助は小石を拾つて、四つ五つ竹藪をめがけて投げて見た。ドン、ドンと[illegible]

不滅のシンボル

（最上映上）

大津淳吉郎 作

…第二十五回…

感想 (3)

赤や青の絹糸の入った刺繍らしい繍物の羽織の、袖手な繍模が細かいところまで彼の眼にあった。

『ね、鵙さん！綺しい？』

赤くほてった彼女の、どうかと云へば小さな耳朶に、口を付けんばかりにして杏二は囁くのだった……此の時分はまだ『しいちやん』とは呼ばなかったやうだ……

彼女は嬉く綺いて見せた。

『私の心はよく判ったでせう』

暫らく沈黙の後で、杏二は手紙に書いた女命の一節を思ひ出して言ふのだった。

鵙枝はくす〳〵と笑まり綻びながら、

『ええ、何て言ったの』

『何て言ったか……私、忘れちやつた』鵙枝は笑つてゐる。

『本當に憎しからん男だね。それで、教室が開いて来れる……』

と、杏二は新しく憎りの念を喚起しながら、

『△△山では……？』

郷外の奥の方にある山中でも、Yは彼女に侮辱を加へようとしたのだ。而も、此時は最も緊張を極めた女心にも大火心をして、蒔い處上から飛んで自殺しようとしたのだった。其處に

に就いて、鵙の眼を覗はした。

『話されることは人の認識である』

などと、杏二は哲學的に仕掛けはたしなめた。

『まあいは、……どんなに言ったの？』

『無論、……』

『無論の後で、杏二は聞いたやうに、さう言ったのであつた。

Y……といふのは、高等師範部の高師某という女學生で、鵙枝が高等女學校の時、友人と一緒に通つてゐた男である。現に今では四回生りのある中學校の教師にのぼつて、銀座邊りらしい處に立つてゐる男だ。鵙枝はある時彼と二人で散歩した時、突然接吻を加へようとしたのだった。彼女は彼を絶Y先生と呼んでゐた。Yはまだ若い十六歳の鵙枝を絶してゐたらしい。

『嫌も、子供の二人もある四十近い男で……鵙枝の言葉を聞いて欲求、思ひ

は小さくも偉り細い神經な、思ひ詰めた女の『力』があつた。

鵙枝は此時も遂に目的を果し得なかつたのである。

『男を恐らうもの哉、女の武はね、恐ろしいものよ。鵙さんはそんなことはないと信ずるけども……』

火鉢でも叩かと疑はれるやうな強い〳〵調子をしながら、杏二は笑くやうに言ふのだつた。

ある日ひとりでれね談話が、彼の口から鵙枝の耳許を見て、逃り出た。鵙枝の平常な表情は、見る〳〵嫌悪に変つて行つた。

『……こんなこと言ふと、何だかその、鵙さん（此の時分はもうしいちやんとは言ふまでになつてゐたのだ）の純潔を書き汚』をけがすやうだけれども、Yが強もうとしたのと、實際未遂はすでもう？ね、逃うでせう？それとも同じかしら？何うえ？』

特獨のコーヒーとWINE

紳士の喫茶店

バッカス グリル

サービス料一割（外拝辞）

平市銀座通 TEL 702

女店員募集

▼年齢　十七歳より二十五歳位迄
▼月給　初給四十四以上漸次昇給
▼待遇　衣裳貸與、食支給

何の氣苦勞もなく朗かに働ける固定給料制です。
眞面目に働きたい方は！、健實な生活をお望みの方は！、至急お出下さい。
懇切に御指導致します。

上原家政婦會

平市緋屋町一一
會主産婆　**上原通子**
電話二二一番

産婆看護婦有資格者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

専門……◇……花柳病科
……◇……婦人科
……◇……産科

▼入院隨意

井坂醫院

平市田町　電話五五九番

食事　喫茶　酒場を兼ねた

レストラン　**サロン**

平市田町　電二五三

銃後の皆樣喜んで御使用になる

糸イラズ

綿布、綿糸、晒晒の折柄古き破れた足袋、靴下、メリヤス、ジャケツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなりませう男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい

平市古銀冶町一〇

阿康藥局

電話四四番
振替東京三〇〇六五番

定價　20錢
　　30錢

視力保全運動

視力異狀に早期檢眼
明快な、視力能率增
進、正確な眼鏡により視力を保全致しませう。

各眼科御用

眼鏡專門　**玉屋眼鏡店**

平市二丁目

提灯と國旗　**スカヤ**　電話九九番

耳鼻咽喉科專門

大和田醫院

平市南町一六（電話一二〇番）

父重助儀帝大病院ニテ加療中ノ處藥石効無ク二十六日午後五時逝去致候間此段謹告仕リ候、

追而葬儀ノ儀ハ來ル五月二十九日二時自宅出棺良善寺ニ埋葬可仕候

昭和十三年五月二十七日

喪主　鈴木光四郎
親戚　草野甚一郎
　　志賀定平
總代　上田耕作
　　青沼鋒太郎
友人　佐藤庄太郎
　　諸橋久太郎
　　野崎滿藏
總代　鈴木康平

夫會田政治郎儀豫て病氣の處療養不相叶五月二十七日午後三時五分逝去仕候間此段御通知申上候

追て告別式は五月二十九日午後二時自宅にて佛式により相營み可申候

昭和十三年五月二十八日

福島縣石城郡內郷村綴

妻　會田スイ
親戚　鈴木榮太郎
總代　三浦忠治
友人　倉田龜之助
　　菅原萬善三郎
　　濱崎雄繁
總代　水上秀島福

有限責任信用組合平庶民金庫監事鈴木重助殿五月二十六日午後五時東京帝大病院ニテ逝去被遊候間此段謹告申上候

尙御葬送の儀は來る五月二十九日午後二時自宅出棺良善寺に埋葬可被致候間御趣に御座候

昭和十三年五月二十七日

有限責任信用組合　**平庶民金庫**

花柳病科外科

木村外科病院

九〇三話電　際橋目丁六市平